（別紙様式＝小学校用）

都道府県番号	２８
都道府県名	兵　庫　県

【　①□　　②■　　③□　】
＊重点をおいた観点にチェックすること

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	豊岡市立五荘小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	4	4	2	23	29
児童数	104	127	109	115	127	122	5	709	

Ⅱ　研究の概要

（１）　研究主題

子どもたちの主体的な学びを支える授業の創造
～一人一人の個性を生かした指導の工夫と改善～

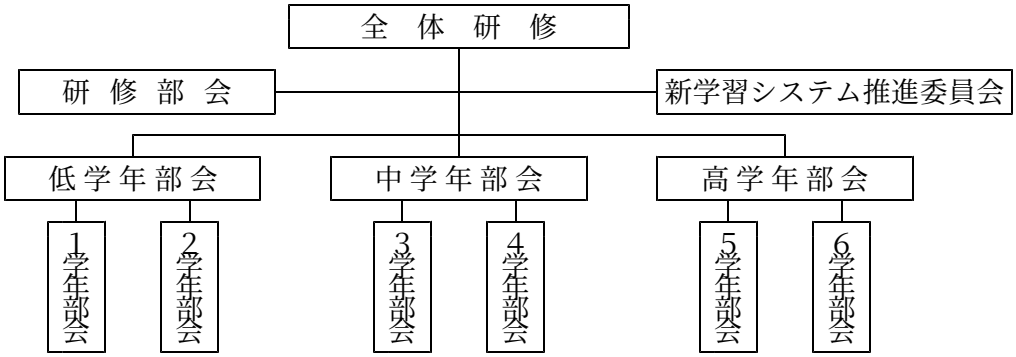
（２）　研究主題設定の趣旨

生きる力の根幹を成す「自ら学び、自ら考える力」の育成を目指して、本校においては、平成１０年度より新たな学習システムを導入し、また、１３年度には、学力向上フロンティア事業研究指定を受け、個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善など、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るべく研究を進めてきた。
本年度は、従来の取り組みを継承しながら、更に子どもたちの主体的な学びを高め、「確かな学力」の定着と「生きる力」を獲得していくことを研究の目的とした。
学力を「教える側が持っているもの」から「学ぶ側が備えているもの」として捉え直す視点に立った時、従来の教師主導型の「教え込む」教育から脱却し、子どもたちの内にあるよさや可能性を「引き出す教育」、子どもたちが自らの力で「獲得する教育」へと転換できる。
学びは常に個から始まるものであるが、集団での学びを通すことによって、より豊かに感動的に学ぶことができる。そのため、教師は子どもの声をしっかり受け止め、子どもたちの多様な個性を生かした「互いに響き合う学習」を推進するべく上記のテーマを設定した。

Ⅲ　研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

（１）　研究推進体制の工夫

○全体研修では、学力向上フロンティア事業との関連を図るため「算数」を中心として取り組む。各学年１本の提案授業の事前研は学年で、事後研は全体研修で行う。提案授業以外の授業研は学年研修として行う。
○新学習システム」と一体的に進める。
・5、6年の教科担任制と算数科における少人数授業などきめ細かな指導（週２時間）
・3、４年では、算数科において、少人数などきめ細かな指導　（週３時間）
・「学力向上フロンティア事業」における教科担任制、Ｔ．Ｔ、合同授業、協力的な指導など、学年部での連携も考慮して必要に応じて学年部会も実施する。



（２）研究の実際

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善(３年２学期の実践)

単元名　『あまりのあるわり算』（全８時間）

○２教員による指導形態の工夫（今回取り組んだもの）

３年生３クラスが、単元全体を通して担任とシステム教員の２人体制で“少人数などきめ細かな指導”による授業を行う。その際、各クラスそれぞれ違う形態で２人の教員による授業を行った。

①同室複数［形態 A］・・・３組

一人は全体として授業を進め、一人は理解しにくい児童へ個別指導にあたる。

②自己選択少人数［形態 B］・・・１組

授業の後半、授業のやり方を明示した上で、児童がコースを自己選択する。

③無作為二分割少人数〔形態Ｃ〕・・・２組

クラスを無作為に２集団に分割し、授業する。

○単元を通してさぐりたいこと

①３つの指導形態は子どもにとってどうだったのか

振り返りカード（授業の後）・アンケート（単元終了後）など。

②３つの指導形態は教師にとってどうだったのか

授業の準備・授業の組み立て方・児童への目の行き届きなど。

○授業で気をつけたこと

①学習の主体は子どもである。個を支え、個を生かす指導に徹底した。

②「あまりのあるわりざん」は、３年１学期の単元「わりざん」に引き続いて、学習される。課題に対して既習の知識や技能を生かすことを大切にした。

③“わりざん”や“あまり”の体得には算数的活動が重要となると考える。形式だけでなく、操作と結びつけた学習活動を行った。

④児童の主体的な活動や発表を通して、算数への自信や意欲を高めようとした。

○各形態の授業

①１組～形態 B（自己選択少人数）

単元の前半の時間は、１時間の全部を同室複数授業で行い、あまりのあるわりざんについて、おはじきを利用した算数的活動や、話し合いによるあまりの意味の確認をしっかりと行った。（Ｔ１が全体的な流れをリードし、Ｔ２は主に理解しにくい児童への個別指導。）

単元の中ほどから後半にかけての時間は、前時の復習と本時の基本形となる問題または学習課題を全員で複数指導において確認し、その後に２コースの勉強のやり方を説明し、子どもが自己選択した上で、２教室に分かれての少人数授業をした。（Ｔ１のコースは、教師と一緒に今までの学習を振り返りながら問題に当たっていくコース。Ｔ２のコースは、自分でできる子どもは問題をどんどん解いていき、つまづきがあれば教師に質問するコース。）

②２組～形態 C（無作為二分割少人数）

１クラスを出席番号により交互に２つに振り分け、少人数集団を作った。

２人の教師は必ず授業前に打ち合わせを持ち、授業の進め方、進度などについて共通の認識を持って授業にのぞんだ。

授業後にも打ち合わせをし、授業における子ども達の様子、理解の度合いなどについて話し合い、次の授業に生かした。

③３組～形態 A（同室複数）

単元の全時間において、Ｔ１とＴ２が同じ教室に入りの授業を行った。

２人のうち１人が主となって授業を進める。もう１人は主に理解しにくい児童への個別指導。ただし、この２人の役割はいつも同じでなく、同じ単元のうちに、役割を交代して授業を行った時もある。

理解しにくい児童が多い場合は、演習中などに、個別指導の役割の教師が該当児童を黒板の前に集め、もう一度復習しつつ進める場面もあった。

○授業の感想（アンケートより抜粋）

①１組～形態 B（自己選択少人数）

２つに分かれると自分のペースでできるからいい。これからも 2 つに分かれたり、クラス全員でやったほうがいい。

分からなかったらヒントを先生にもらえばいいし、分かれば一人でどんどんできるところがいい。

あとで先生とゆっくり考えたら、詳しく教えてくれて分かりやすかった。

わからないところが残っていても､教えてもらえるから分かれてやるほうがいい。

コースに分かれると､いつもより教室ががやがやしなくてとても授業がしやすい。

②２組～形態 C（無作為二分割少人数）

いつもより静かで、とても勉強しやすかった。

人数が少ないのでいつもより手があげやすかった。発表もいっぱいできた。

全員でやるよりも集中できる。普段うるさかった人も静かにできていた。

とても分かりやすくて、楽しく勉強できる。人の発表も静かに聞ける。

③３組～形態Ａ（同室複数）
いろいろな質問が出て、いろんな問題が考えられてよかった。
実際に廊下に出て、いすに座るまねをして、よくわかった。
２人の先生に教えてもらって、簡単に頭に入った。
担任の先生にしてもらう授業よりもよかった。

（３）研究の成果と課題
①成果(「Ｔ．Ｔや少人数授業について」児童のアンケート結果）
◎どんなふうにかんじていますか

	３年	４年	５年	６年
とてもよかった	３６％	４４％	２７％	３２％
ほぼよかった	３７％	４６％	３５％	４８％
どちらともいえない	１４％	８％	１９％	１０％
あまりよくなかった	６％	２％	１５％	６％
よくなかった	７％	０％	４％	４％

◎どんなところがよかったですか（３．４年生）

勉強がよくわかった	５１％	４８％		
担任でない先生とふれあえた	１８％	２７％		
気持ちが引きしまった	２０％	１７％		
その他	１１％	８％		

◎どんな所がよかったですか（５．６年生）

学習内容がよくわかった			２９％	３９％
意欲的に学習できた			２３％	２０％
発表や質問がしやすくなった			９％	２４％
気持ちが引き締まった			３７％	１５％
その他			２％	２％

○「教科担任制について」児童のアンケート結果（５．６年生のみ）
◎どんなふうに感じていますか

とてもよかった			２９％	２２％
ほぼよかった			５０％	６２％
どちらともいえない			１３％	９％
あまりよくなかった			４％	５％
よくなかった			４％	２％

◎どんな所がよかったですか

学習内容がよくわかった			３９％	２７％
多くの先生とふれあえた			２６％	３３％
教科に興味がわき、意欲的に学習できた			１２％	１６％
気持ちの切り替えができた			２０％	２１％
その他			３％	３％

○Ｔ．Ｔや少人数や教科担任制の授業をこれからどうしてほしいですか

もっと多くしてほしい	３３％	４７％	１５％	２６％
今のままでいい	５４％	５２％	７０％	５６％
もっと少なくしてほしい	１３％	１％	１４％	１５％
その他	０％	０％	１％	３％

《アンケートや授業から》
・昨年と比べ、「学習内容がよく分かった」と、分かる喜びを表す児童が 3．4 年で 3％（昨年 45％）、5．6 年で 9％（昨年 26％）増えている。一方で、多くの先生とふれあえることを良かったという理由にする子は少なくなっており、このことから、ＴＴ指導や少人数指導は、子どもたちにとって価値ある学びを保障していると考えられる。
・上記のアンケートの記述（３．４年）では、ＴＴや少人数学習は、いつもより静かで集中しやすく、発表や質問がしやすいとしている児童が多い。また、「算数が得意になった」、「成績が伸びた」「どんどん学習を進めたい」と自信をつけてきている様子も書いている。
・ＴＴ指導、課題選択学習、コース選択学習など、単元の特質や児童の実態に応じた学習形態を工夫し、子どもに応じた学習指導が可能になった。
・様々な指導形態を検討する中で、学級間の壁が取り除かれ学年としてのまとまりが高まった。
・「計算のたしかめ」の実施によって、子どもたちの実態と課題が把握でき、チャレンジタイムでの課題作りや算数の授業での配慮などに役立てることができた。
・教科担任制は、開かれた学級づくりを一層促進してきた。児童の多面的理解が行われ、より一層協働体制が整ってきた。
・教科担任制により、より深い教材研究ができ、子どもたちの興味・関心に応じた教材や教具の開発がしやすくなった。

②課題

・これまでの取り組みを踏まえて、より学習効果を高めるために学習形態と指導時間を明確にした年間の「単元指導計画」を見直している。
・学習内容により課題別コースも取り入れたいと考えているが、子どもたちに自分の力を認識させ、正しいコース選択させるための手立と工夫が必要である
・多様な学習形態の推進を保護者へ一層理解してもらうよう取り組むこと。
・更に個に応じた指導を徹底し基礎基本の定着を図るためにも、次年度、システムの拡充をめざした人員の増員を要望する。

（４）　研究成果の普及の方策

・平成１６年2月２１日（土）に、フロンティア事業としての授業参観日を設け、授業参観の後、保護者説明会及び講演会を実施
・平成１６年１１月２６日（金）に、本校にて研究会を実施する予定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　■１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　■教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　■算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント

・児童の学力や学習の状況に応じた指導を行うため、学級を解体した「コース別」学習に取り組んでいる。また、各学年の発達段階を考慮し、個に応じた指導の工夫改善に取り組んでいる。